

令和6年度 石見銀山基金事業

石見銀山学習概要報告集

班別

- 【1班】 第一中学校・大田小学校・長久小学校・川合小学校・久屋小学校
- 【2班】 第二中学校・五十猛小学校・静間小学校・鳥井小学校・久手小学校・朝波小学校
- 【3班】 第三中学校・大森小学校・高山小学校
- 【4班】 北三瓶中学校・志学中学校・志学小学校・北三瓶小学校
- 【5班】 大田西中学校・仁摩小学校・温泉津小学校

大 田 市 校 長 会
石 見 銀 山 課
NPO石見銀山協働会議

1 班

第大長川久
一田久合屋
中小小小小
学学学学学
校校校校校

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 3年生・131名

2. 実施時期 令和6年 5月～7月

3. 学習のねらい

- ① 石見銀山について、世界遺産としての価値や魅力をより深く知る。
- ② 石見銀山を「持続可能な大田市の資源」にするために、魅力や改善策を提案発表できる。
- ③ 石見銀山学習を通して、自分の生き方を見つめ、ふるさとへの誇りと愛着を育てる。

4. 学習内容

<事前学習>

- ① 石見銀山のよさや抱えている課題について知り、よりよい石見銀山になるにはどうしたらよいか活性化・保存の2つの視点から考える。
- ② 石見銀山課の中田健一課長補佐の講話を聞く。
- ③ 石見銀山の資料(本や DVD など)を使い、現地学習で回るコースについての調べ学習をし、課題や解決策、現地学習で質問したいことについてまとめる。

<現地学習>

幕末～近代明治の銀山コース、観光と暮らしの両立コース、武家・商家コース、奉行・代官の仕事コース、江戸時代の鉱夫コースの5つのグループに分かれ、銀山ガイドの会の方とともに大森の町を歩いて事前学習を生かして新たな情報収集を行う。

<事後学習>

- ① 現地学習で得られた新たな情報を、事前学習でまとめた内容に付け加えをし、石見銀山を「持続可能な大田市の資源」にするための提案発表シートの準備を進める。
- ② 提案発表会を行う。
- ③ 銀山学習の感想を書く。

5. 実際の学習の様子

幕末～近代明治の銀山コース

観光と暮らしの両立コース

武家・商家コース



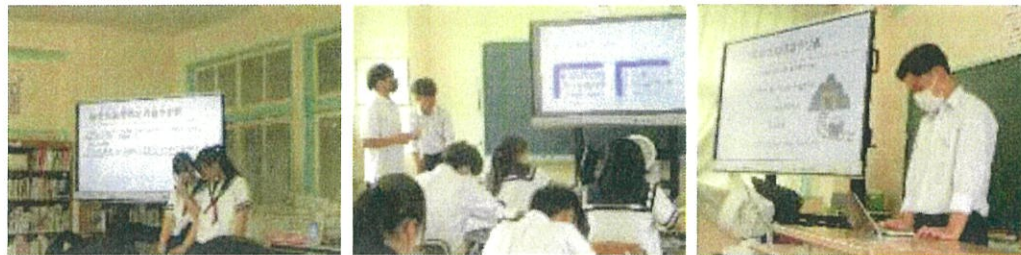
奉行・代官の仕事コース



江戸時代の鉱夫コース



提案発表会の様子



生徒の感想

- 実際に石見銀山に行ってみてわかったことがたくさんありました。ガイドさんの話を聞いて、石見銀山の町並みの歴史やつくり、お寺などにたくさんの思いや意味がこめられていることや、住民の皆さんが町並みの維持やにぎわいとおだやかさを大事にしながら安心して暮らせる住みよい町づくりをしていることから石見銀山に対する人々の思いがたくさんわかりました。しかし、その一方で人口がだんだん減って行って、維持することがだんだんと難しくなってくるというマイナスな面も知りました。これからまとめ学習をして、石見銀山の未来を作っていきたいと思います。
- たくさん歩いていろんなところを見たり行ったりしたけど、昔の姿がそのまま残されていてすごいなと思いました。まさに文化的景観だと感動しました。龍源寺間歩の中に入るととても涼しかったけれど、冬は暖かいと知って不思議に思いました。間歩の中にも昔の人が掘った跡が残っていました。今の石見銀山は、昔の人の苦労があつてのものだから本当にすごいと思います。もっと良い町になるよう頑張りたいです。
- 今日の石見銀山学習を終えて、いろいろなことが分かりました。石見銀山資料館は、昔は大森陣屋だったことや、井戸神社の文字を書いたのは、なんとなんと勝海舟だったことも分かりました。
- 今日、私が学んだことは、熊谷家住宅、旧河島家住宅に共通して「すべてを無駄にしない」という考えがあることです。熊谷家住宅では、野菜や出てきた灰を次に使えるようにするといった昔からのたくさんの工夫があるということを知りました。旧河島家では、物置のシンデレラフィットがすごいと思いました。住んでいる人たちの景観を守ろうとする工夫が見られて、今の町並み大事にしているのだと感じました。
- 自分の住む町ではあるけれど、ほとんど行ったことがなかった石見銀山に改めて行ってガイドさんに説明してもらうことで、今まで知らなかった自分の地域の魅力がわかりました。僕は、現地学習をするまでは活性化することが絶対だと思っていたけれど、あの伝統的な町並みや間歩などの景観を守ることが大切だと感じました。景観を守りながら活性化する方法を考えることが必要だと思いました。

6. 成果と課題

- よりよい銀山を目指して、事前に生徒が考えた案を中田課長補佐の講演や調べ学習、現地でのフィールドワークを通して、案をより質の高いものにしようと考えることができた。石見銀山の世界遺産としての価値や魅力を知ること、提案を練り、発表することができた。
- 今年度は市役所の石見銀山課と連携を取って、石見銀山協働会議の方や銀山に関わる企業の方に提案発表会を参観してもらった。また参観してもらった皆様に感想を書いてもらい、廊下に掲示する形で生徒に返すことができた。フィードバックがあることで生徒にとっては良い経験になったと考えている。
- 中学校3年生を対象に銀山学習を行うことは、全員が1回以上銀山に行ったことがある前提で学習を進めることができ、より深い学びとなったと感じている。オリエンテーションから提案を考えるまでスムーズに進めることができた。
- △銀山学習に関わる手続きが煩瑣だと感じた。見学の際の関係各所への手続きが一本化されるとありがたい。

大田市立大田小学校

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 6年生 72名

2 実施時期 令和6年10月～令和6年12月
(※現地学習 10月17日)

3 学習のねらい

○世界遺産「石見銀山」の学習を通して、郷土への誇りや愛着を育むとともに、「持続可能な社会の創り手」の育成につなげる。

○話を聞いたり調べたりという探究的な活動を通して、石見銀山遺跡の価値を学び、発信していきたい、守っていききたいという思いと実践力を育てる。

4 学習内容

【総合的な学習の時間『世界に輝く！石見銀山～その輝きを未来につなげよう～』】

①講師の先生に来ていただき、石見銀山についてお話をしてもらい、課題設定に向けての意識を高める。(講師) 三瓶自然観サヒメル 中村 唯史 氏

②書籍、パンフレット、ビデオ、インターネット等を活用しながら、自分の課題についての情報を収集したり、課題を焦点化したりする。

③学習したことをより深めるために現地見学を行う。

(世界遺産センター、銀山地区、金生坑・釜屋間歩)

④石見銀山学習を通して、ESDの観点から調べたことや考えたこと、地域の課題や自分の行動についてまとめ、学習発表会で発表する。

⑤デジタルツインバースを用いた「デジタル版石見銀山学習」で、町並み地区について情報を収集する。

⑥「石見銀山学習」について各自で振り返り、それを全体で共有する。

5 実際の学習の様子



オリエンテーション
中村 唯史氏



現地学習 (大森町)
世界遺産センター



釜屋間歩



デジタルツインバースによる町並み地区調べ学習



学習発表会での発表

(児童の感想)

- 中村さんからお話を聞いたり、現地で実際に見て迫力を感じたり、ガイドさんからいろいろ教わったり、デジタルツインバースで町並みを歩いたり、いろいろな角度から石見銀山の勉強ができて楽しかったです。
- こんなにすごい歴史があるのだから、もっといろいろな人に知ってもらいたいと思って一生懸命調べました。学習発表会では、多くの人に自分たちが調べたことや感じたことをしっかりと伝えることができました。
- 学習して一番すごいと思ったことは、石見銀山と世界はつながっていて、ヨーロッパの人たちが石見の銀を求めてアジアまで来るくらい有名だったということです。それだけでもすごいのに、石見銀山はさらに自然にもやさしくしていたと知りました。こんなにすごい銀山が私たちの島根県大田市にあると思うと何だか自慢したくなります。きれいな石見銀山を保っていけるようにボランティアの活動などをやってみようと思いました。

6 学習の成果と課題

【成果】

- ・世界遺産「石見銀山」の学習を通して、郷土への誇りや愛着を育むとともに、大田市民として自分たちで伝えていきたい、守っていききたいという気持ちをもつことができた。
- ・世界遺産「石見銀山」の歴史や価値について学ぶ活動を通して、課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現までの探求する力をつけることができた。
- ・デジタルツインバースを活用することで、時間的・金銭的に見学できなかったエリアについて意欲的に調べ学習をすることができ、遺跡の価値についての理解が深まった。
- ・たくさんの方に協力していただき、ひと・もの・ことのつながりが深まった。

【課題】

- ・現地学習をより充実させるために、事前学習のあり方や学習テーマの焦点化について考えていかなければならない。
- ・自分たちの地域ならではの銀山学習を開発していくためにも、身近な物と石見銀山との関わりなどについて、さらに学んでいく必要がある。

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 6年生 31名 4年生 29名

2. 実施時期 令和6年9月～12月

3. 学習のねらい

○郷土の貴重な歴史、文化などについて学習することを通して、ふるさとに誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

○石見銀山について学んだり、体験したりしたことをまとめ、発表することができる。

○井戸平左衛門の功績について調べ、銀山カルタにまとめることができる。

4. 学習の内容

(6年生)

主な学習内容（6年）	主な学習内容（4年）
【事前学習】 ○ふるさと長久と石見銀山とのかかわりについて知る。 - 江戸時代初めの国絵図などを使い、長久と石見銀山とのかかわりを知る。 - 長久町内にある佐和奥連の石碑を見学し、調べる。 【現地学習 9月30日】 ○石見銀山について調べたり、体験したりする。 - 世界遺産センターで説明を聞いたり、龍源寺間歩や町並みを見学しながら解説を聞いたり、自分の体で感じたりする。 【学習を深めまとめる】 ○見学を通して分かったことと、もっと詳しく知りたいことをそれぞれがテーマを決め、さらに調べる。 【発信する 11月下旬～12月上旬】 ○まとめたことを情報発信する。 - 各々のテーマについて調べた内容をプレゼン用ソフトを用いてまとめ、発表する。 【事後学習 12月10日】 ○これから自分ができることを考える。 - それぞれの発表を聞き、新たに学んだこと、これからも調べてみたいことを振り返りに書く。	【事前学習】 ○郷土の発展に尽力した井戸平左衛門の業績について知る。 - 社会科教師の準備したスライド資料や社会科副読本「わたしたちの大田市」などを使い、井戸平左衛門が活躍した時代の様子や行動について調べる。 - 長久や大田市内などにある平左衛門の石碑について調べる。 【現地学習 12月3日】 - 大国町にある井戸碑、大森町にある井戸平左衛門ゆかりの場所（大森代官所・城上神社・熊谷家・栄泉寺・井戸神社）を見学し、井戸平左衛門が活躍した時代の様子や、行動について調べる。 - 栄泉寺総代である川上さんの話を聞き、町並み交流センターで銀山カルタを実際に楽しみ、見学後の表現活動に生かす。 【事後学習】 - 現地学習で学んだことや感じたことをグループで発表し合い、共有する。 - 井戸平左衛門について学習したことをもとに、銀山カルタを作成する。 - カルタコンクールを行い、お互いのカルタの良さ（表現の工夫）に気づく。

5. 実際の学習の様子



【佐和奥連見学】



【銀探し体験】



【学習発表】



【井戸碑見学】



【銀山カルタ体験】

6. 学習の成果と課題

(6年生)

・子どもたちにとって石見銀山という存在が身近なものではなかったため、まずは本物に触れることで興味をも

ったり関心を高めたりすることを期待して龍源寺間歩の見学や世界遺産センターに行くことを導入とした。本物に触れることで子どもたちの中に興味・関心が生まれ、もっと知りたいことや調べたいことが見つかり、子どもたちの学習が深まっていったのは成果と言える。ただ、子どもたちの事前学習が少ない状況だったため、山ガイドの方々の詳しい解説の全てを理解することはできなかった様子だった。現地での見学をどのタイミングで入れるのかは課題として残った。

- ・石見銀山の世界遺産登録に尽力した人々や取組について様々な資料や見学等で調べたことで、これからは、その人々の思いを私たちが受け継ぎ、私たちの大田市の誇りである石見銀山をみんなで守っていくことが大切だという気持ちをもつことができた。
- ・世界遺産センター見学や龍源寺間歩見学を通して、石見銀山の景観の美しさや石見銀山で当時働いていた人々の苦勞をとて感じることができ、今まで以上に一人ひとりが故郷の宝を大切にし、多くの人にその魅力を発信していくことが大切だという思いを強めることができた。
- ・事前学習でせっかく長久町とのつながりについて学んだのに、それからの学習に結び付けたり、情報発信したりできなかった。調べ学習のテーマの中に入れることで、自分の郷土とのつながりも考えながら伝えることができたろう。

(4年生)

- ・郷土の発展に尽力した井戸平左衛門について調べたことで、飢饉で苦しんでいた人々の思いに寄り添い、自己犠牲を払ってでも助けようとした平左衛門への感謝の気持ちをもつことができた。
- ・大国町や大森町内で井戸平左衛門ゆかりのさまざまな場所を訪れたり、榮泉寺総代の話を聞いたりすることで、今と昔の生活の違いや先人の活躍などについて知ることができ、郷土の歴史に対する児童の興味・関心の高まりを感じることができた。
- ・大森の町並みを探索することで、自分の住む町に誇りを持って行動することが世界遺産登録につながったことを知り、郷土を大切にする気持ちを持つことができた。
- ・見学したことをカルタにまとめる活動を通して、調べたことを整理して表現する能力を育てることができた。さらに友達のカルタの良さを見つけることで、表現力をいっそう高めることができた。

7. 児童の感想

(6年生)

- ・特にすごいと思ったのは福面だ。鉾夫の人がつけていた福面は、害になるものを防ごうと梅の果肉をつけて間歩を掘っていたと聞いて、その知識がすごいと思った。
- ・大森町の特徴が印象に残った。家の特徴については、私たちが生活している所と少し違い、大森町は昔から受け継いできたことを今でも生かしながら過ごしていると知り、驚いた。
- ・間歩の中を見学したときに、とても暗く狭く感じた。昔はそんな中で硬い壁を掘っていたと思うと、銀を掘ることはとても大変なことだなと感じた。
- ・銀の使われ方を知ることができた。毛利氏が天皇に1110枚丁銀を渡していたと聞き、驚いた。
- ・当時は、石見銀山が世界の銀のおよそ3分の1を産出していたと聞き、驚いた。明治時代以降は銀が枯渇したけど、代わりに銅が採れたと聞き、銀山という名前だけど銅が採れるんだなと思った。

(4年生)

- ・井戸平左衛門の石碑は長久町だけでなく、大森町や仁摩町・大国、波根町にあった。浜田市や江津市・松江市にもあってびっくりした。
- ・サツマイモはせまい土地・やせた土地でもできる。サツマイモはお米の代わりだった。おなかいっぱい食べることができるので、大事な作物だった。
- ・井戸平左衛門がサツマイモのことを聞いた寺が榮泉寺だ。ここで、泰永にも会った。井戸平左衛門は命をかけてサツマイモを広め、村を救った人だった。

令和 6 年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

大田市立川合小学校

○ 実施学年・人数 第 6 学年 人数 16 人

○ 実施時期 令和 6 年 9 月～12 月 (現地学習：10 月 15 日)

○ 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・見学調査活動を通して、石見銀山遺跡の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる。

○ 学習内容

学習テーマ **大田の宝、石見銀山に学ぼう**

- ① 石見銀山について疑問や調べるテーマを決定し、図書資料等を活用して調べ、まとめる。
 - ・石見銀山について既に知っていることなどをもとにイメージマップを作成したり、DVD を見て関心をもったことを話し合ったりして石見銀山について調べたいテーマを決める。
 - ・図書資料等を活用してテーマに沿って調べ学習を行い、情報カード等にまとめる。大久保間歩、釜屋間歩を見学する。
- ② 世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。
- ③ 石見銀山について分かったことをスライド資料にまとめる。
- ④ 川合、池田の地域資源（伝統など）について考え、まとめる。

○ 実際の学習の様子

【事前学習】

① 石見銀山について知る

DVD や副読本（銀山ことはじめ）、世界遺産センターから出ているパンフレット等を活用して石見銀山の概要を小項目に分けて学習し、石見銀山の歴史や価値について知る中で各自の課題を設定した。

【現地学習】

② 大久保間歩・釜屋間歩を見学

銀を採掘するために、いろいろな体勢で仕事をしていたこと、銀の採掘方法、どのように銀が出来るかなどを学んだ。間歩の中に入って、実際に中の暗さを感じたり、掘った跡を見たりすることで当時の採掘に携わった人々の労苦を児童なりに感じ取ることができた。また、釜屋間歩の岩盤遺跡は当時の人々の生活が分かるものであり、遺産センターでの模型とつなぎ合わせて理解することができた。



③世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする

館内見学では、自分たちが今まで学習してきたことを頭に置きながら説明を聞き、見学することができた。展示物で銀山全体の広さや、歴史的価値を再度確認することができた。また、選鉱体験では、銀生産の方法を自分自身で体験し理解が深まったと同時に、銀を取り出す作業の大変さを実感することができた。



【事後学習】

④石見銀山について分かったことをスライド資料にまとめる

事前学習や現地学習で学んだことを整理し、各自が設定した課題についてさらに調べ学習を進め、石見銀山について分かったことをスライド資料にまとめ、学級で発表した。

⑤川合、池田の地域資源について考え、マップにまとめる

地域資源を受け継ぎ、人権尊重の町づくりをしている石見銀山と大森町の関係から、これまでに学習してきた地域資源や伝統について再度考えるきっかけをもつことができた。そこで気付いた住む町の地域資源の記録としてマップ作りを行った。

○学習の成果と課題

- ・石見銀山遺跡について学習することで、今まで知らなかった銀山の価値を知ることができ、銀山への興味・関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りをもつことができた。
- ・資料を用いて調べるだけでなく、実際に現地に行ってみ聞きし、体験することで理解が深まった。
- ・石見銀山遺跡の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる学習活動を通して、確かな学力を育てることができた。
- ・銀山の歴史的価値を受け継ぐ大森町の取り組みから地元と関連付けて学ぶことができた。
- ・今後、歴史的なつながりから学習を進める場合、情報が十分ではないため、関係機関と協力して情報を蓄積していく必要がある。

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第5・6学年15名（指導者3名）

2. 実施時期 令和6年5月～令和7年1月

3. 学習のねらい

- ・豊富な体験をもとに石見銀山を地質的、文化的、経済的など多面的に捉える。
- ・学んだことをもとに石見銀山に関する知識を統合すること。
- ・石見銀山についての個人探求を通して、自分の学びや学び方をふり返りまとめること。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前学習	・副読本・図書館の本・パンフレット等から、石見銀山遺跡の歴史や価値について知り、現地学習での課題を設定する。 《外部講師による授業》 ・資料館研究員佐藤愛さんのお話（プラネタリウム鑑賞含む）を聞き、銀が宇宙空間でどのようにして形成されるのかを知る。 ・石見銀山で銀が採れる仕組みを学び、鉱物と銀鉱床の概念について知る。
現地学習	①仙ノ山縦断コース登山 石見銀山の核心である仙ノ山に行き、ガイドの会の方のお話を聞くことで、当時の鉱山町の様子や銀を掘っている様子を知る。 ②大森町並み見学 ・大森町内を散策し、ガイドの会の方のお話を聞くことで、鉱山町として栄えた当時の様子を知る。 ・当時の町並みが現在も残っていることから、観光資源としての価値について学び、歴史的建造物や文化的景観の維持・保全の取り組みについて知る。
事後学習	○まとめ ・石見銀山がもっていた経済力と社会的な影響力、豊かな自然環境の中で営まれていた銀の採掘の様子、石見銀山遺跡の維持・保全の取り組みについて、学習してきたことをまとめ、発表する。 ○事後学習 ・石見銀山が自然と共存したことが高く評価されていることを知る。 ・石見銀山の歴史や現在の状況について関心をもったことを調べる。 ・資料および見学や体験学習で学んだこと、さらに自分自身で調べてみたことなどについて個人で探求テーマを設定してまとめ、地域の方に向けて発表する。 ・個人探求発表を校内で下学年を対象にして発表する。

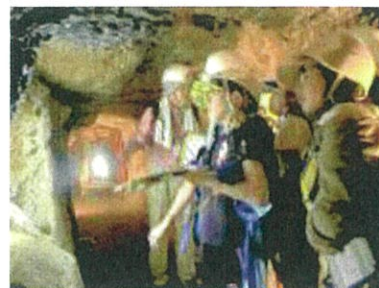
5. 実際の学習の様子



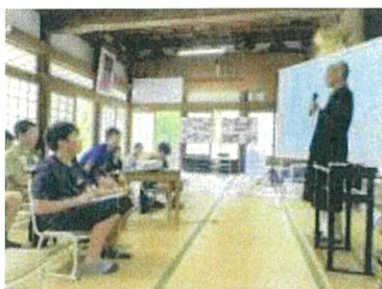
【石見銀山資料館 佐藤愛さんのお話】



【仙ノ山縦断コース登山】



【龍源寺間歩見学】



【大森町並み見学】



【デジタルツインバースの取り組み】



【個人探求発表発表会】

6. 児童の感想

- ・実際に大森に行ってみてガイドさんに教えてもらったり、佐藤愛さんや中村唯史さんのお話を聞いたり、自分たちでデジタルツインバースを使ったりして、たくさんの人から石見銀山について教えてもらうことができました。龍源寺間歩の見学をして、間歩の中がとても寒いことがよくわかりました。
- ・一番びっくりしたことは、大森銀山が閉山されたときに鉱山を掘ったり道具を作ったりした人たちが、そこで使われていた道具が久屋にある松代鉱山や鬼村鉱山に移動していたことで、久屋ともつながりがあったことです。
- ・石見銀山（大森）が世界遺産に登録されるには、町民の協力や努力があっただけでよかったことなのだとわかりました。昔は銀を掘って海外の人と貿易していたから、石見銀山は日本にとって欠かせないと思いました。
- ・ぼくは瓦のことについて調べました。最初はあまり情報がないと思っていましたが、瓦というひとつのものにも歴史や文化がたくさんあることが分かってすごくよかったし、びっくりすることがたくさんあって調べてよかったと思いました。

7. 学習の成果と課題

- 石見銀山の歴史、価値についての理解を体験的に深めることができた。
 - 世界的価値のある石見銀山遺跡への誇りと愛着の醸成を図ることができた。
 - 石見銀山と自分たちの町やその周辺とのかかわりを学ぶことで、ふるさとを見直し愛する心を育てることができた。
 - 調査、見学、まとめを通して、情報収集、情報活用等、課題解決能力の向上を図ることができた。
 - 個人探求活動を通して、自身の関心について書籍やインタビューなど様々な方法で調べることができた。
 - 個人探求発表を通して、聞く人を意識したプレゼン資料の作成、情報発信能力の向上を図ることができた。
- また、学校全体の ICT 活用サイクルを高めることができた。

2 班

第 五 静 鳥 久 朝	二 十 間 井 手 波	中 猛 小 小 小 小	学 小 学 学 学 学	校 校 校 校 校 校
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数

1年生72名

2 実施時期

令和6年6月～令和6年12月

・現地学習 9月6日(金)

3 学習のねらい

- ・生徒が石見銀山の歴史や価値などについて知識・理解を深め、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心を育てる。
- ・生徒が地域の人々と交流を深めながら、これからの石見銀山のあり方について考えようとする態度を育てる。
- ・世界遺産である石見銀山の魅力を再発見し、伝えようとする態度を育てる。

4 学習内容

(1) 事前学習

- ・ガイダンスで学習のねらいや活動計画を知り、学習の見通しをもつ。
- ・小学校での学びをもとに、石見銀山の魅力を「歴史」「生活・文化」「企業・公共施設」「世界の関わり」「技術」の視点から考察し、探究課題を設定して、解決する方法を計画する。
- ・現地学習コースの訪問予定地を各自で調べ、当日の予定を立てる。

(2) 現地学習

- ・グループごとに立案したプランに沿って現地研修を行う。
- ・現地では、石見銀山ガイドの会や事業所の方々などの石見銀山に関わりの深い方にインタビューをし、石見銀山への理解を深める。
- ・班別自主研修を行い、班内で協力することや時間を守ることなどの大切さを学ぶ。
- ・世界遺産センターや石見銀山ガイドの会、地元企業から史跡や企業の取組について詳しく説明を聞き、石見銀山への理解を深める。

(3) 事後学習

- ・現地研修で感じたことや新たに知ったことをふまえて、探究課題への答えをまとめる。
- ・各班でプレゼンテーションの資料を作成し、それぞれの視点から石見銀山の魅力を発表する。
- ・プレゼンテーションの資料については、文化祭で展示し、地域の方々に見てもらう。

5 実際の学習の様子

(1) 生徒の感想(探究課題に対する答え)

○世界遺産センターでは、どんな方法で銀の採掘をしたのか、掘るときに困ったことや働いていた人に休憩の時間が保証されていたのかがわかりました。(企業・公共施設の視点から)

○石見銀山資料館で学習したことは、スペインの人が銀を求めていたとき、日本は他の国の物と銀を交換していたということです。特にポルトガルやスペインとの交易の関係で石見銀山で採掘された銀の需要が高まったことがよくわかりました。当時、世界で採掘される銀の1/3が石見銀山のものだというのは驚きました。(世界とのつながりの視点から)

○下河原吹屋跡は、発掘調査で江戸時代に銀精錬などをしていたと考えられる工房跡で、柱や水路のあったところに、今でも残る土台の石を見て、石見銀山の盛んな精錬の作業の一端を知ることができました。(歴史の観点から)

○旧河島家は、6代目が銀山附役人のトップである組頭まで昇進し、8代目まで役人の勤めを続け、それが明治時代の始めまであったということを学びました。訪問した家の中を見て、その当時の暮らしがど

のようなものだったかを知ることができました。(生活・文化の視点から)

○フィールドワークでは、熊谷家住宅を訪問しました。景観を守るために、傷んでいるところを直してもらったり、手入れをしたりするなど、住宅の保存に力を入れている様子が分かりました。また、日本文化に興味をもっている外国人観光客が多く訪れるということを聞いて、石見銀山が世界的に知られている一面も知ることができました。(生活・文化の視点から)

(2) 学習の様子とプレゼンテーション発表

事前学習（学習方法を検討している様子）



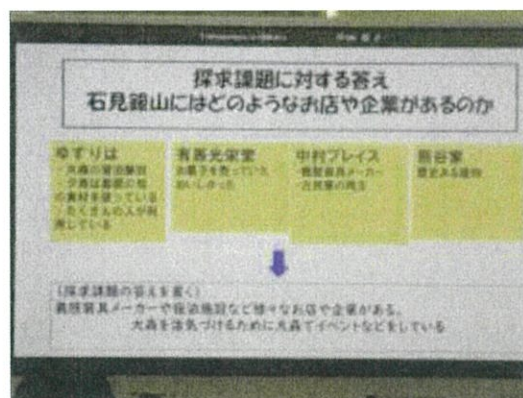
現地学習（現地での探究活動の様子）



プレゼンテーション発表の様子



作成したプレゼンテーションの資料



6 成果と課題

- ・学習課題「石見銀山の魅力とはなんだろう」をもとに、グループごとの探究課題を設定したことにより、見学コース決めや現地学習、まとめといった一連の学習を主体的に行うことができた。
- ・どの班も必ず、地域の方や施設の方から直接話を聞けるように見学コースを設定したことで、石見銀山や大森の町に関わる方々の思いに触れることができた。そこから、石見銀山の歴史的な価値や、石見銀山およびその周辺で活動する人々の生き方などを学び、石見銀山の現在そして未来につながる価値について考えることができたように感じられた。それは、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛することにつながると思われる。
- ・ガイドの会や企業の方へのインタビューを通して、石見銀山の理解を深めることができた。そして、地域の人々との交流の機会を通して、これからの石見銀山のあり方について考え、ふるさとを愛する気持ちをもつことができた。

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 第6学年 12名

2 実施時期 令和6年11月～令和7年2月

3 学習のねらい

- ・遺跡や資料館の見学をしたり、石見銀山遺跡の資料を用いる学習をしたりして石見銀山遺跡の歴史やその価値を理解し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・調べたり体験を通して学んだりしたことをまとめ、伝え合い、理解を深める。

4 学習内容

過程	主な学習活動
事前	○石見銀山について知る。(11月、12月) ・副読本(銀山ことはじめ)・パンフレット・DVD・図書館の本などから、石見銀山の歴史や価値について知る。また、地域講師から五十猛と石見銀山のつながりについて学ぶ。 ・事前学習で分かったことをパワーポイントでまとめる。
現地学習	○現地を見て感じる。(12月6日) ・龍源寺間歩の見学、その周辺地域めぐりなどを通して、石見銀山遺跡を見学する。 ・石見銀山世界遺産センターでの展示資料や遺跡見学でのガイドの方の説明から、石見銀山の歴史や価値について理解を深める。
事後	○分かったことをまとめ、発表する。(1月、2月) ・実際に現地を調査して感じたことや分かったことをパワーポイント資料に追加して、まとめ、発表する。

5 実際の学習の様子

【龍源寺間歩や銀山坑道コースの見学】 ガイドの方の説明を聞きながら現地を見学したことで、事前に調べていた内容や現地で説明を聞いた内容について、当時の様子をイメージしながら、五感を通して理解することができた。 また、実際に銀の採掘をしていた龍源寺間歩の中を歩いたことで、間歩の中の様子や採掘技術等について、理解することができた。	【世界遺産センターの見学・丁銀づくり体験】 世界遺産センターでは、職員の方の説明を聞きながら様々な展示を見て回り、石見銀山の歴史や当時の暮らし、鉱山技術等についての理解を深めた。また、石見銀山と世界とのつながりについても理解できた。 丁銀づくり体験では、実際につくられていた丁銀についての説明を聞いた後で、レプリカの丁銀を実際につくってみたことで、記憶にも形にも残すことができ、よい体験となった。
---	--



○児童の感想

- ・石見銀山世界遺産センターで一番心に残ったことは、ゆり盆体験です。ゆり盆体験をさせてもらって、当時の人が、どのように銀を取り出していたのかが分かりました。
- ・龍源寺間歩の中は、上や下の方のいろいろな所に穴があいていました。何日もかけて掘っていたことが、その間歩から分かりました。
- ・石見銀山を歩いて、疲れたけど、いろいろな所を見ることができて良かったです。間歩がたくさんあってびっくりしました。
- ・大森のまちの中や石見銀山世界遺産センターを見学したり説明を聞いたりしたので、灰吹法のやり方がとてもよく分かりました。
- ・石見銀山は、間歩が1200以上も発見されたと聞いてびっくりしました。将来、石見銀山に住もうかなと思いました。石見銀山をこれからも守っていきたいです。

6 学習の成果と課題

- ・学習を通して、石見銀山への興味・関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りを持つことにつながった。事前学習で、地域講師から五十猛町と石見銀山の関係について教えていただいたことで、石見銀山が少し身近に感じるようになった。
- ・石見銀山世界遺産センターや現地での見学により、石見銀山の歴史や価値についての関心をより高めることができた。また、副読本やDVDで学習したことについて実感することができ、理解が深まった。
- ・現地の見学が12月になり、大久保間歩に入ることができなかった。次年度の担任・担当者に確実に引き継ぎ、計画的に学習を進めていきたい。

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第6学年（12名）
 第3学年（6名）・・・熊谷家

2. 実施時期 令和6年9月～12月

3. 学習のねらい

- ・郷土の貴重な文化・歴史遺産である石見銀山遺跡について学習し、遺跡についての知識・理解を深めるとともに、地域の一員としてこの遺跡に誇りを持ち、大切にしていこうとする心情を育てる。

4. 学習の内容（第6学年）

①事前学習

『銀の作り方を知ろう』

- ・パンフレットや資料、DVDから石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知る。
- ・佐藤愛さん（石見銀山資料館）に話を伺い、課題を見つける。

②現地学習

『銀の作り方を知ろう』

- ・世界遺産センターの見学や体験活動、大久保間歩を見学したり、ガイドの方のお話を聞いたりして、銀生産の様子と銀山で暮らす人々の生活について調べる。

『港の役割について知ろう』

- ・漁港のフィールドワークをし、石見銀山をめぐる海運と港町の役割についての学びを通して、港の作られる地形と適した環境について知る。

③事後学習

『学習したことをまとめて、表現しよう。』

- ・学習を通して学んだことを新聞やパワーポイントにまとめ、発表する。

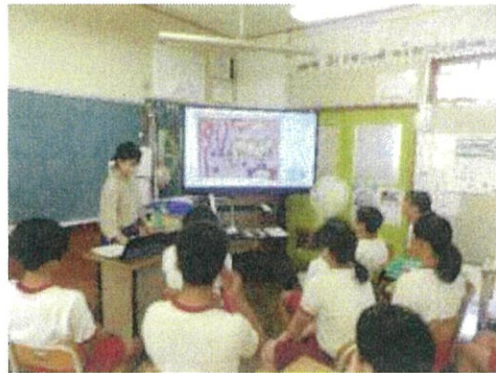
学習の内容（第3学年）

- ・児童は、市の特色を学習した際に石見銀山が大田市の誇る世界遺産であることを学んだ。見学では、石見銀山が発展していく中で熊谷家が果たした役割について館内を見学しながら説明していただいた。そして、大森代官の命を受け、銀行や酒造業など様々な役割を行い、石見銀山の発展に貢献したことをまとめた。

5. 実際の学習の様子



熊谷家体験・見学



佐藤愛さんのお話



石見銀山現地学習



港の役割について説明

6 学習の成果と課題

【成果】

- ・ 石見銀山の歴史、価値についての理解を深めることができた。
- ・ 世界的に価値のある石見銀山遺跡を知ることを通して、郷土への誇りと愛着をもつことができた。
- ・ 地域の漁港のフィールドワークをし、石見銀山をめぐる海運と港町の役割についての理解を深めることができた。



銀山学習についてのまとめ

【課題】

- ・ 銀山学習を通して、地域の様々な魅力について知るきっかけとなったが、幅広く発信していくことや外部へのアプローチといった活動が十分にできなかった。伝える相手や目的を明確にした単元構成の見直しをもって、学習活動を進めていくべきであった。

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年、人数

第5学年 10名 第6学年 4名

2. 実施時期

令和6年9月～令和6年12月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさと大田への愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

○事前学習

- ・図書館の資料やパンフレット、インターネットから石見銀山に関する地図や写真、読み物等を調べ、学習への意識を高める。
- ・石見銀山ガイドの会、渋谷次夫さんのお話を聞いて、石見銀山の歴史について理解を深め、現地学習での課題を見つける。

○現地学習

- ・石見銀山資料館を見学したり、説明を聞いたりして理解を深める。
- ・大久保間歩を見学したり、ガイドの会の方の説明を聞いたりして理解を深める。

○事後学習

- ・調べたり見学したりして分かったことをまとめる。
- ・デジタルツインバースを活用して大森の街並みについて調べ、大森町の人々の暮らしについて関心を深める。
- ・まとめたことを新聞にまとめて発表する。

過程	主な学習活動
事前	・パンフレットやインターネットの資料から石見銀山遺跡や大久保間歩について調べる。 ・銀山学習特別授業（地域講師：渋谷次夫さん） ・石見銀山が世界遺産に登録されるまでの道のりや地域講師の渋谷さんが石見銀山でガイドを行う中での気づきを聞き、今後の学習課題を見つける。
現地学習	・石見銀山世界遺産センターで説明を聞いたり、見学したりして、石見銀山の歴史について理解を深め、自己の学習課題を解決する。 ・間歩の見学（大久保間歩・釜屋間歩）や世界遺産センターでのゆり盆体験を通して、鉱脈の様子や掘り方、作業の工夫や苦労について理解を深める。
事後	① デジタルツインバースを活用した銀山学習特別授業（講師：大成建設） ・デジタルツインバース上で再現した大森の街並みを歩く体験をしたり、どのような建物があるのかを調べたりして、石見銀が世界へ広まった貿易や、歴史的なこと、人々の暮らし

	について理解を深める。 ・石見銀山と鳥井町の関係について、自分の課題や探究したいことを見つける。 ②学習課題について調べ学習 ・図書館の資料やインターネットを使って、自分の学習課題についてさらに調べる。 ③学級での発表 ・調べたり見学したりして分かったことをまとめて発表の準備をする。 ・まとめたことを発表する。
--	--

5. 実際の学習の様子

【11月19日】地域講師
(澁谷次夫さん) の特別授業



【11月21日】大久保間歩・
釜屋間歩見学、石見銀山資料館
見学、ゆり盆体験



【12月6日】デジタルツイン
バースを活用した学習



児童の感想より

- ・澁谷さんのお話を聞いて、石見銀山について多くのことを学びました。私が特に印象に残っていることは、なぜ間歩と呼ばれるようになったのか、金づちやのみなどの道具を用いて銀を掘っていたことなどです。分かりやすく楽しく話を聞くことができました。
- ・間歩には、たくさんの銀を掘っていた大きなものや、人が入れないくらい小さなものなど、100を超える間歩があることを知ってびっくりしました。
- ・デジタルツインバースを使って、実際に大森の街並みを歩いているような気持ちになりました。いつか本当に大森の街並みを歩いてみたいと思いました。
- ・世界中の人が銀を求め、石見銀山が世界の経済を支えていると分かりました。お話を聞いて、初めて知ったことがたくさんあり、もっと石見銀山について知りたいと思いました。

6. 学習の成果と課題

- ・体験活動や見学を通して、石見銀山の歴史やその価値について理解を深めることができた。
- ・講師の方からお話を聞くことで、より理解が深まった。
- ・デジタルツインバースを用いた学習では、初めての試みだったが有意義な時間であった。今年度は事後学習として取り組んだので、今後は事前学習等での活用の仕方を計画したい。

大田市立久手小学校

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 第6学年 36名

2. 実施時期 9月から12月

3. 学習のねらい

○郷土の貴重な文化遺産である石見銀山遺跡について、課題意識をもって学習を行うことによって遺跡の価値に気付くとともに、知識と理解を確かなものにしていく。

○学習の成果をまとめ、発表することを通して、この地に生まれ育った一人として、この遺産に誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

4. 学習の内容と様子

【事前学習】

- ・副読本「石見銀山ことはじめ」や資料、インターネットを使って、旧波根湖干拓による新田開発や川崎平右衛門の業績について学ぶ。
- ・旧波根湖干拓による新田開発や川崎平右衛門の業績について、講師（島根県立三瓶自然観サヒメル中村唯史氏）の話を聞き理解を深める。また、石見銀山遺跡の歴史や価値について学ぶ。
- ・副読本「石見銀山ことはじめ」や資料を使って、石見銀山遺跡の歴史や価値について学ぶとともに、現地学習での課題を見つける。



【現地学習】

- ・大久保間歩、釜屋間歩をガイドの方に説明していただきながら見学し、当時の様子についての理解を深める。
- ・世界遺産センターでの館内見学やゆり盆体験を通して、世界遺産「石見銀山」の価値や当時の人々の苦勞についての理解を深める。

(1) 大久保間歩、釜屋間歩の見学



(2) 世界遺産センター見学



(3) ゆり盆体験



【事後学習】

- ・ 見学や体験を通して学んだことをまとめる。
- ・ 石見銀山遺跡について学んだことや魅力について劇やクイズなどにまとめ、学習発表会で全校児童や保護者に伝える。



5. 成果と課題

- 久手町に関わりの深い「川崎平右衛門」に関する学習から始めたことで、児童の石見銀山遺跡への興味・関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りをもつことにつながった。
- 間歩や世界遺産センターの見学、ゆり盆体験活動を通して、当時の生活の大変さを感じたり、人々の思いを想像したりすることにつながった。また、事前学習での学びについて実感することができ、理解を深めることができた。
- 石見銀山遺跡の歴史的価値などをまとめて伝える学習活動を通して、石見銀山の素晴らしさを感じるとともに、「石見銀山を大切にしたい。」「よさを知ってもらいたい。」など、今後の保護・保存・活用への意欲を高めることができた児童が多かった。

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数

第6学年 12名

○実施時期

令和6年9月～令和6年12月

○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分で設定した課題について、体験活動や調べ学習を通して学んだことをまとめ、伝え合う。

○学習内容

過 程	主な学習活動
事前学習	○学習課題を見つけよう ・多田先生から朝山小学校校区の波根・朝山・富山と石見銀山のつながりを聞く。 ・副読本やインターネット、パンフレット、DVD等から石見銀山遺跡の歴史や価値について知り、自分が調べたいテーマを考える。
現地学習	○波根の長福寺を見学しよう ・長福寺で毛利元就ゆかりの品を見せてもらう。 ○島津屋（朝山町）の関所・越堂たたら跡を見学しよう ・石見銀山との関連を考える。 ○要害山（富山町）の富永山城守の居城跡を見学しよう ・石見銀山との関連を考える。 ○大森の町並みを歩こう ・観世音寺から見た景色から大森の町並みの特徴を考える。 ○世界遺産センターで調べよう ・ガイドの方の話を聞く。 ・センター内を見学し調べる。 ・調べても分からなかったことを質問する。 ・ゆり盆や丁銀作りを体験する。 ○龍源寺間歩・大久保間歩・釜屋間歩を見学しよう ・ガイドの方に説明していただきながら間歩を見学する。 ・ガイドの方に質問する。 ○日本遺産：立神岩（波根町）を見学しよう ・学芸員の方からその歴史や銀山との関係を聞く。
事後学習	○メタバース授業で自分の課題を深める。 ・見学や調べ学習から生まれた新たな課題についてデジタルツインバースを使って調べ、自分の銀山学習を深める。 ○石見銀山について分かったことをまとめよう ・調べたことをまとめる。 ・プレゼン用シートや原稿にまとめ、学習発表会で学んだことを発信する。

○実際の学習の様子

◆多田先生との学習



◆波根長福寺見学



◆大久保間歩見学



◆立神岩学習



◆メタバース学習



◆学習発表会



○学習の成果と課題

- ・石見銀山のことをほとんど知らない児童が、その歴史的価値を学ぶよい機会となり、児童にとって石見銀山が身近なものとなった。
- ・校区内にある石見銀山と関連した遺品や遺跡・日本遺産に触れ、その価値を知ることによって、我が町、波根・朝山・富山に対する誇りや郷土愛が育まれた。
- ・石見銀山に関する個別の追求テーマを設定し、メタバース体験や発表の場を設けたことで、主体的に学ぼうとする意欲や課題を解決するための追求力が高まった。

3 班

第 三 中 学 校
大 森 小 学 校
高 山 小 学 校

大田市立第三中学校

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第1学年(3名)

2. 実施時期 令和6年5月上旬～11月上旬

3. 学習のねらい

- ・小学校で学習してきた「石見銀山」について、さらに理解を深めるために、尾道へ銀を運んだ「やなしお道」(※小学校では未学習)を中心に歴史や人物、事物に対する知識・理解を深め、郷土の歴史や文化遺産への関心を高める。
- ・自分なりの目標をもって学習・活動に取り組み、学習したことを要約し、絵や図を使うなどして分かりやすくまとめる。

4. 学習の内容

オリエンテーション	5月1日	オリエンテーション 既習事項の確認	石見銀山学習計画の概要を説明すると共に知っていること、知らないことをまとめる。
事前学習	9月6日	やなしお道について	石見銀山ガイドの会澁谷さんから説明を聞く。
フィールドワーク	9月26日	やなしお道探索	石見銀山ガイドの会澁谷さんの案内で美郷町までの街道を歩く。
事後学習	9月下旬～	文化祭展示発表準備	自分の目標や学習したことについてまとめ、文化祭で展示発表する。

5. 実際の学習の様子

9月6日(水)

事前学習

澁谷次夫さん

から説明を聞きました。



9月26日(木)

やなしお道探索

澁谷次夫さんに

案内してもらいました。





6. 生徒の感想

今回の銀山学習では実際に見たり触れたりする体験ができて、とても良かったです。やなしお道をたくさん歩く中で、銀を運んでいた人たちのいろいろなエピソードを教えていただき、とても面白かったです。歩いている中で珍しいものをいろいろ見つけました。キノコや「ぬた場」のことなど、知らないことがたくさんありました。それらについて、渋谷さんが丁寧に教えてくださったのでとてもよく分かりました。

今回、やなしお道を歩いて、昔の人たちはこの道をずっと歩いていたのだということが分かりました。途中で「土橋」や建物の跡など、人がいた痕跡が今なお残されていることに、少し驚きました。一つ一つの場所で、詳しくお話をしていただき、各地の伝承や昔にあったことなどが分かりました。私は、やなしお道について最初はよく分かっていませんでしたが、渋谷さんに学校や現地で教えてもらい、知識を深めることができました。

やなしお道はとてもきつかったけれど、楽しかったです。景色が良いところもあってきれいでした。有名なエンマ大王もやなしお道に関わっているのだと思い、驚きました。やなしお道にはたくさん土橋があって、昔の人の技術力はすごいなと思いました。また、見たこともないキノコがたくさんあって、とても興奮しました。渋谷さんのガイドはとても分かりやすく、メモもたくさんとれました。

7. 成果と課題

- 1 「石見銀山」及び地域の「街道」や街道沿いの事物について学ぶことによって、地域の文化遺産や自然環境に愛着をもち、ふるさとへの誇りを持った生徒を育てることができた。
- 2 「街道」や物流について学ぶことによって国内外と「石見銀山」とのつながりを知り、「石見銀山」への価値を再認識し、広い視野を持った生徒を育てるとともに、その価値を次代へ継承していこうとする意欲を高めることができた。
- 3 学習のまとめを決めて、文化祭への発表に向けて学習活動を行った。その活動によって、課題解決力や表現力を高めることができた。
- 4 地域にある貴重な世界遺産の保全に対する意欲を高めることができた。
- 5 石見銀山ガイドの会の方との学習をとおして、地域のために活動することの楽しさや素晴らしさを学ぶことができた。
- 6 「やなしお道」は当時の銀の運搬について考える貴重な道であるが、前日雨だったこともあり、足元が悪く、蜂やヘビなど出会う危険性も高い。実施については、事前の下見が必要。

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 3～6年生以上16名
2. 実施時期 6月～11月
3. 学習のねらい
 - 石見銀山の魅力を再認識する活動を取り入れることで、郷土への誇りと愛着を育む。
 - 学習したことを地域や一般に発信するという目標を立てることで、見通しをもって活動に臨み、意欲的・主体的に課題を解決していく態度を育てる。
 - 発見・収集した情報を処理し、わかりやすく伝える工夫を考える活動を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

4. 学習の内容

大森小学校では、毎年石見銀山についての学習を行っており、資料を調べるだけでなく実際に様々な場所に出かけて行き、見学したり専門の方にお話を聞いたり、体験したりする活動を大切に考えている。以下、具体的な実践について紹介する。

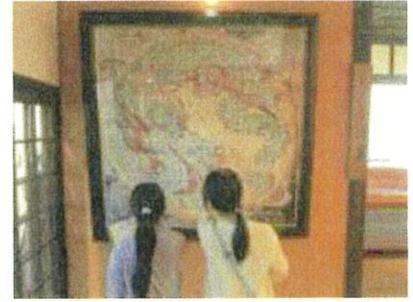
(1) 地域発信活動（3～6年：16名）

- ・ 3・4年生は大森の町に出かけ、大森の魅力や抱える問題をもとに課題設定を行った。それぞれが設定した課題をもとに調べたことをまとめ、情報発信を行った。一部の児童は、アンケートを取ったり、町に落ちているごみについて調べたりした。
- ・ 5・6年生は、昨年度に学習した「世間遺産」について、大森の隠れた魅力をより多くの方に知ってもらう方法を考えた。観光客の方や地域の方にアンケート調査を行い、データの収集や分析を行った。

(2) 石見銀山資料館見学（3・4年生：12名）

- ・ 石見銀山資料館を見学し、銀で栄えていた頃の大森の町の様子や人々の暮らしについて知り、大森町の歴史に関心をもつことができた。
- ・ 大森町が世界遺産として大切に受け継がれていることを改めて学ぶことができた。

5. 実際の学習の様子



6. 学習の成果と課題

成果

○石見銀山資料館見学では、石見銀山や大森の歴史、大森町にある史跡などについて知り、銀で栄えた当時の様子を想像することができた。

○石見銀山ガイドの会の方々の話を聞き、町並みを歩きながら学んだり、銀の運搬をしていた山に登ったりしながら学習を進めることができた。

○学習したことを文章やプレゼンテーションソフトにまとめ、地域や保護者に学習成果を発信した。この学習を通して、郷土愛と自己肯定感をもつことにつながった。

○愛護少年団活動では、全校児童で定期的に史跡清掃活動を行った。また、生活科の学習では大森の町探検の活動を行った。低学年から石見銀山に関する活動をすることで、3年生からの総合的な学習の時間との系統性をもたせることができた。

課題

△可能な範囲でフィールドワークを行い、子どもの興味・関心をより引き出すような学習のあり方の見直しを行いたい。

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数

5年生4名 6年生6名 (計10名)

2 実施時期

令和6年10月～12月 (※現地学習 11月8日)

3 学習のねらい

地域に根付いた教材をもとに、探究的な学習を行うことで、総合的な学習の時間における、資質・能力を育てる。銀を運んだ沖泊道や、温泉津の街並みを歩き、その道のりや、道沿いの遺跡を見学して、石見銀山の価値を知り、ふるさとへの愛着と誇りを持つ。

4 学習内容

○課題設定

・「銀山ことはじめ」、「世界遺産 石見銀山を歩く」などの資料を読んだり、昨年度学習している6年生の話の聞いたりして石見銀山の歴史や価値について理解し、現地学習に向けての興味や関心を引き出す。

○課題追究

・石見銀山の銀鉱石や銀を運んだ道や温泉津の街並みについてインターネット等で学ぶ。
・石見銀山の銀を運んだ道や温泉津の街並みについて学びを深めながら運んだ人々の工夫や苦勞を感じられるようにするために「沖泊道を歩く」体験活動を行う。
・沖泊道を歩くことで、今もなお残されている「石畳」や「道標」「清水の金柄杓の水」、「鼻ぐり岩」や、温泉津の街並みの歴史ある建造物を実際に見る。

○まとめ学習

・見学で学んだことをタブレットPC等を活用してまとめ、紹介動画を作成する。

○来年度の学習への接続

・石見銀山デジタルツインバースの活用によって、今後の学習への展望をもったり、さらに興味や関心を高めたりする。

5 学習の様子

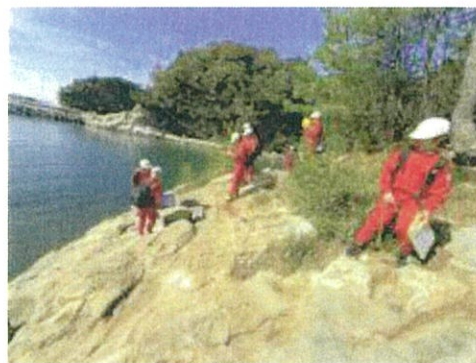
【事前学習】「昨年度の学習から6年生の説明を聞こう」

「わたしたちの石見銀山」を読もう」

- ・なぜ世界遺産になったのか。・銀をどうやって採掘、精錬したのか。
- ・銀がなぜここにあるのか ・間歩について

【現地学習】「石見銀山街道を歩いて、銀の通った道を体験しよう（沖泊道）

ヨズクの里をスタートし、温泉津の街並みを抜け、沖泊まで歩いた。そこにある様々な遺跡を見学しながら、銀を運んだ道のりを実際に体験することができた。



【事後学習】

「銀山街道1分間動画を作成しよう」

沖泊道約10kmを歩いた中で、紹介したい場所を決めてスライドにまとめた。

- ・道中の庄屋や民家跡
- ・道（石畳や溝について）
- ・堂床山、将棋岩
- ・清水の金柄杓
- ・清水の石切場
- ・松山の道標
- ・沖泊
- ・鼻ぐり岩

「石見銀山デジタルツインバースを体験して、次の学びにつなげよう」

石見銀山デジタルツインバースという新たな学び方を体験した。

体験を通して、本単位では学ばなかったことについて興味をもったり、考えを広げたりすることができた。



6 成果と課題

学習のテーマを「世界遺産学習 石見銀山から世界へ」として、前年度の学習とは別の角度から取り組んだ。自分たちの足で実際に歩くことで、石見銀山の歴史や価値についての理解を深めた。また、その素晴らしさを知ること、郷土が誇る世界遺産に触れ、ふるさとを愛する心を育てることができた。

本校の高学年は複式学級のため、5・6年生の2年間、石見銀山にかかわる学習を行う機会がある。昨年度の学びとは別の視点で学習を計画し、石見銀山について知ることを通して、総合的な学習の時間における資質・能力を育成するとともに、学びを広げることができたと思う。

4 班

北 三 瓶 中 学 校
志 学 中 学 校
志 学 小 学 校
北 三 瓶 小 学 校

- ・郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し理解を深めるとともに、その背景となった歴史や地域の文化、技術について学習する。
- ・ふるさとで生活し、はたらく人々の思いを知り、ふるさとを大切にしていこうという気持ちを持つ。
- ・世界遺産である大森の町並みや歴史的建造物を見学することにより、歴史に関する興味・関心を高める。

(2) 現地学習

場所		学年	内容
1	ベッカライコンディトライヒダカ	1・2年	Iターンで起業した思いを聞く
2	株式会社アットゴー おおもりさくら保育園	2年	Uターンで起業した思いを聞く 保育に対する思いを聞く
	熊谷家住宅 石見銀山町並み	1年	職員の話を聞く・見学 石見銀山ガイドの会の方と石見銀山の 見学をする。
3	福光石石切り場	1・2年	福光石石切り場の見学と説明
4	世界文化遺産センター	1・2年	センター職員の方の説明と見学

1. 石見銀山学習でお世話になった方へのお礼状を書く。
2. 石見銀山学習のまとめを八つ切り画用紙にまとめる。
3. 文化祭で学んだことを発表する。

僕が保育園にいた時には、先生に言われたことをやるだけでしたが、おおもりの保育園は、遠足も自分たちで候補を出し合い、話し合って行き先を決めると聞き、驚くとともに素敵なことだなと思いました。

銀山學習まとめ（一部抜粋）

石見銀山は長い歴史を持つすごいところだと思いました。五百羅漢には表情がたくさんあり、昔の人の技術はすごいとわかりました。また、銀がどのくらい大切だったのかがわかりました。これからも歴史や古い町並みを大切にしたいと思いました。

私は何度か行ったことがあるのですが、ガイドさんの話を聞きながら町並みを歩くと知らないことがたくさんあって驚きがいっぱいでした。なんとも思っていなかった銀山について知ったとき、自分が今、すごい所にいるんだあ～立っているんだあ～とすごく実感がわいてきました。

私の地元は茨城ですが島根に来たとき、人とのつながりの深さや地元の方の温かさに驚きました。大森町だからこそできる日高さんのお店は素敵だと思います。日高さんがヨーロッパと島根の風景は似ているとおっしゃいましたが、私も大田ののどかな風景が大好きです。そして、銀山に暮らす人々の努力があるからこそ、守られている景観や文化があると思うので、そのような人たちのことを忘れないようにしたいです。

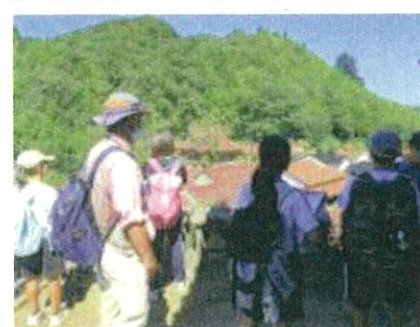
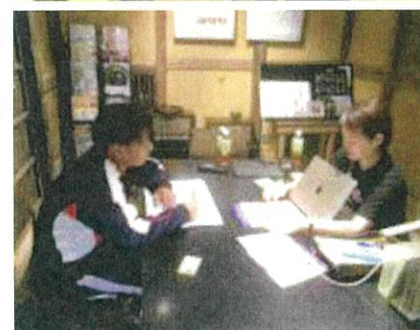
6. 学習の成果と課題

現地見学の前日の落石事故により当初計画していた大久保間歩の見学ができなくなったのは残念であったが、世界文化遺産・日本遺産の一部である温泉津の石切り場を見学できたのは有意義な体験であった。

町並みを見学するだけでなく、大森地域で働く人の話を直接聞くことは、生徒の地域への理解を深めることに有益であるとともに職業観を育てることにもつながる貴重な時間であった。

文化祭で自分たちの体験を発表することにより、現地見学の成果を深める活動ができた。

総合的な学習の時間の探究活動につなげるためには、石見銀山を意識させるための講演などを1学期の早い段階で計画するなど外部との連携を深めることが重要であると感じた。



令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生2名

2. 実施時期 9月

3. 学習のねらい

- ・現地で学んだことをとおして、石見銀山地域や志学地域への理解を深める。
- ・石見銀山地域と周辺地域の保護・整備・継承を行う人々の思いを理解してその意義に気づき、大田市や志学地域への愛着と誇りをもつ。
- ・石見銀山地域の取組を学び、各自志学地域に関する探究活動に活かす。

4. 学習の内容

①事前指導

- ・銀山地域の歴史や大森町の環境保全への取組について、担当教員が説明したり生徒自ら調べたりすることで、共通理解を図った。
- ・WATOWAの近江さんや現象舎の高田さんの活動を知り、詳しく知りたいことや質問してみたいことを考えた。

②銀山公園、温泉津町訪問

銀山公園では、実際に清水谷製錬所跡まで歩きながら、サヒメル学芸員の中村唯史さんにお話をうかがい、銀山地域の歴史や環境保全の取組について学んだ。

温泉津町では、WATOWA代表の近江雅子さんと現象舎代表の高田優花さんに「地域の活性化」についてお話をうかがい、地域振興を考えるうえで重要なさまざまな視点を学んだ。また、本校で取り組んでいる地域探究学習についても多くのアドバイスをいただいた。

③事後学習

学んだことについてまとめ、文化祭で展示した。

5. 実際の学習の様子

① 中村唯史さんによるフィールドワーク学習



② 近江さんのお話



③ 高田さんのお話



～生徒の感想～

- ・大森町の人たちがどれほど石見銀山や町を大切にしているのかがよく分かりました。また、近江さんと高田さんがどれほど温泉津を好きなのかも分かりました。みなさんの話を聞いて、私の地域と似ていると思いました。志学についてもたくさん考えることができました。
- ・3人の方のお話を聞き、今進めている探究活動を地域ともっと一体になってするのもいいと感じました。自分で呼びかける力もつくし、地域の方との交流が増え、志学だからできることが活かせると思ったからです。銀山がこれほど人をひきつけるものだとは初めて知りました。今回は、とても素晴らしい時間でした。

6. 成果と課題

中村さんのお話をとおして、銀山の歴史とともに、多くの人の思いや努力によって、今の景観が保たれていることを学んだ。近江さんや高田さんの地域に対する熱い思いや積極的な活動を知るなかで、その意義を考え、改めて銀山地域や志学地域の魅力を見つめなおすことができた。3人のお話を聞くことで、大田市のたくさんの方が地域のために活躍しておられることを知り、再考や再興という視点で行っている志学地域の探究活動への学習意欲が大きく高まるきっかけとなった。

今後はこの学びを生かし、より石見銀山地域に対する理解を深めるとともに、志学地域活性化について自分の考えを深め、思いを実行できるように支援していきたい。

大田市4班連合小学校

(志学・北三瓶)

令和6年度大田市石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

- 1 実施学年・人数 志学小・北三瓶小5・6年生 12名
- 2 実施時期 令和6年6月～令和7年1月
- 3 学習のねらい
 - (1) 温泉津町の松山の道標、やきものの里、沖泊の見学を通して、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の歴史や価値について学ぶ。
 - (2) 2校の児童が共に活動や学習することを通し、集団行動や協力の大切さを学ぶとともに親睦を深める。
- 4 学習内容
 - (1) 石見銀山の歴史や価値について、資料で調べ学習
 - (2) 温泉津の町並み、沖泊見学
 - (3) 新聞づくりや銀山かるたづくりによる学習のまとめ
- 5 実際の学習や見学の様子
 - (1) 事前学習
 - ・パンフレット、DVD、資料から石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知り、各自の課題を設定した。

(2) 現地学習

①松山の道標、銀山街道の見学



②やきものの里の見学



③温泉津の町並み、沖泊港の見学



(3) 事後学習

- ・現地見学で分かったことを手掛かりにして、各校で新聞やかるたを作り、学習のまとめをした。



6 児童の感想

- 北前船が二千五百俵も運べるほどの大きさだったと知って、とてもびっくりしました。
- 銀山街道を歩いてみて、階段など近くの山の石を切り出して作られていて、昔の人は賢いなと思いました。土に海水をかけて道をかたくしていたことも知り、工夫された道なのだなと思いました。
- 沖泊の港は、たくさんの銀を運び出していたため、うの丸城、くし山城を建てて、銀を守っていたことが分かりました。当時はそれだけすごく銀が大切だったということが分かりました。

7 学習の成果と課題

- (1) フィールドワーク等により、銀の積み出し港としての温泉津地域のすばらしさを体感することができた。
- (2) 銀山学習を各校の教科や総合的な学習の時間につなげることができた。
- (3) 三瓶周辺2校の児童の親睦と連帯感を深めることができた。
- (4) 昨年度大森地区を見学した6年生は、今年度温泉津地区を見学したことで、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」について広く学習することができた。5年生は、来年度大森地区を見学する予定である。

5 班

大 田 西 中 学 校
仁 摩 小 学 校
温 泉 津 小 学 校

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生50名

2. 実施時期 6月～11月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山の歴史や世界遺産としての価値、現状と課題について学ぶことで、ふるさとの魅力を再認識し、地域の魅力や課題に基づいた提案をグループごとにまとめ、発信していく。
- ・世界遺産「石見銀山」とSDGsとの関連を意識させた銀山学習を通して、「持続可能な社会」を築いていくために自分ができることについて考える。

4. 学習の内容

【事前学習】

○「石見銀山学習」ガイダンス

- ・これまで小学校の「銀山学習」で学んできたことを確認し、これから調べたいことについて考える。

○世界遺産「石見銀山に学ぶ」

- ・世界遺産「石見銀山」について、いも代官ミュージアム、仲野館長の講演を通して、最新の状況や課題を知り、併せてSDGsの視点から考えるきっかけとする。
- ・自分たちの決めたテーマについて、図書資料等を使って事前学習(調べ学習)を行い、現地学習に向けて学びたいことをまとめる。

【現地学習】

○「銀山地区」、「町並地区」に分かれて現地学習を行う。

- ・ガイドの方の説明を聞きながら、班で設定したテーマについて調べる。
- ・事前学習で出てきた疑問や質問をガイドの方や現地のスタッフの方にインタビューをする。

【事後学習】

○それぞれのテーマについて、調べた内容をまとめ、発表するための準備をする。

- ・各班で調べたことや現地学習でわかったことを、新聞にまとめて文化祭で発表し、パワーポイントを使って参観日のときに発信する。
- ・他の班の発表を聞いて、自分のテーマとの共通点や新たに分かったこと、提案できることなどを書く。

5. 実際の学習の様子

【現地学習】 ガイドの会による説明



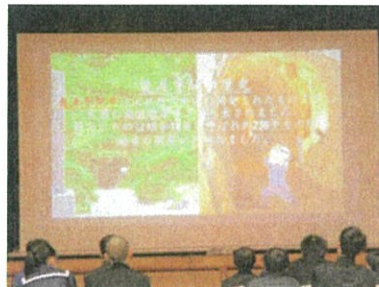
【現地学習】 グループによる探究



【事後学習】 文化祭掲示



参観日の発表



【生徒の感想から】

- ・龍源寺間歩は、長くて暗く、途中に何本も穴が空いていて、これを昔、全部人が掘ったと思うと大変だと思った。銀がどのような所にあり、どのようにして見つけるかがわかった。
- ・龍源寺間歩には、江戸時代と明治時代のそれぞれの掘り方があり、歴史を感じることができた。
- ・熊谷家には地下に隠し部屋があり、また2階も1階の部屋からもわからないような作りになっていることが、行って初めてわかった。
- ・町並みを歩いてみて、ガイドの方や地元の方に聞いて初めて知った場所があった。そのような場所をこれから訪れる人たちに伝えていけるとよいと思う。

6. 成果と課題

- 世界遺産「石見銀山」の歴史、価値について理解を深め、より詳しく世界遺産「石見銀山」について知ることができた。
- 体験活動やフィールドワークを通して、実際に体験すること、実物を見て調べることの大切さに気づくことができた。
- 調べ学習やレポートづくりを通して、情報収集能力や表現能力を養った。
- 世界遺産「石見銀山」についての学習を通して、ふるさとを愛し、ふるさとを大切にしようとする態度を育むことができた。
- 世界遺産「石見銀山」とSDGsとの関連を意識させることで、将来自分が地域にどのように関わっていくべきか、どのように伝え残していくか考え、将来の自分をイメージすることができた。

令和6年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第3学年（16名）・第4学年（23名）・第5学年（24名）・第6学年（24名）
2. 実施時期 令和6年11月～令和7年2月
3. 学習のねらい
 - ・石見銀山の魅力や仁摩町と石見銀山の関わりについての学習を通して、郷土への愛着と誇りを育む。
 - ・体験したり、調べたりしたことをまとめる活動を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

4. 学習内容

学年	3 年	4 年	5 年	6 年
単元名	昔の人々の暮らし	井戸平左衛門について調べよう	石見銀山と私たちの仁摩	輝け！石見銀山
ねらい	熊谷家住宅を見学したり、かまど体験をしたりすることで、石見銀山が栄えていた頃の人々の暮らしや大森の町の様子について理解を深める。	仁摩町内や大森にある史跡を実際に見学して、石見銀山や井戸平左衛門について学習し、郷土の歴史への興味・関心を深める。	銀鉱山や出土品を見ることで、銀採掘の様子や人々の生活の様子について興味をもち、ふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ち、大切に守っていかうとする心情を育む。	大森から馬路まで鞆ヶ浦街道を歩くことを通して、当時の人々の生活の様子や郷土の貴重な歴史遺産、文化についての理解を深めふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ち、大切に守っていかうとする心情を育む。
内容	・熊谷家住宅にてかまど体験を行い、当時の人々の暮らしについて体験を通して学ぶ。 ・熊谷家住宅の中を見学し、当時の人々や町の暮らしの様子を知る。	・井戸平左衛門について図書や資料などで調べる。 ・石見銀山や井戸平左衛門について、仁摩地域との関わりについて地域講師の話を聞く。 ・メタバースで大森を見学したことを確認する。 ・学習したことをパワーポイントにまとめる。	・世界遺産である石見銀山について調べる。 ・世界遺産センターや大久保間歩の見学、熊谷家の体験学習を通じて、身近にある世界遺産について知る。 ・調べたことを新聞やパワーポイントなどにまとめる。	・大森から馬路まで銀鉱石を運んだ鞆ヶ浦街道を歩く計画だったが、寒波の影響で中止とした。 ・鞆ヶ浦港に行き、鼻ぐり岩の仕組みや港から銀が運び出されていた当時の説明を聞く。 ・石見銀山が世界に及ぼした影響について学習し、歴史や海外とのつながりについて理解を深める。

5. 実際の学習の様子

■【6年】事前学習・鞆ヶ浦街道（荒天のため中止）鞆ヶ浦港の見学〈令和7年2月10日（月）〉



【児童の感想から】

- ・鞆ヶ浦港のことを学習して銀がどのように運ばれたのかということがよくわかりました。
- ・鼻ぐり岩を見ると、当時の港の様子や舟の大きさを想像できました。鼻ぐり岩の役割がよくわかりました。
- ・鞆ヶ浦に鼻ぐり岩がたくさんあってびっくりしました。鼻ぐり岩の形や牛や馬の鼻から由来していることを知りました。
- ・私はグリーントフが気になったので自分で調べてみようと思います。

■【5年】大久保間歩・世界遺産センター・熊谷家住宅野草茶体験 〈令和6年11月11日（月）〉



【児童の感想から】

- ・昔の人が掘ったところと機械が掘ったところのちがいがあってびっくりしました。
- ・昔の人は暗い中どうくつに入って銀を採掘していたけど、その中でたくさんの銀がとれていてすごいと思いました。元々は、岩だったけど長い月日を経て、あんなに広い洞窟になっていてとても驚きました。



■【4年】井戸碑・井戸神社・大森町並み等見学〈令和6年11月22日（金）〉 馬路鞆館見学〈令和7年2月25日（月）〉



【児童の感想から】

- ・いも代官ミュージアムを見学して昔の人々の苦しさがよくわかりました。井戸平左衛門はとても人々思いの代官さんだとわかりました。
- ・大森の建物を見て昔の人は工夫をしているなと思いました。
- ・はじめて知ったことは、鞆館には、いもを保存する冷蔵庫みたいなものが地下にあることです。井戸平左衛門さんは仁摩を救ったんだなあと思いました。

■【3年】熊谷家住宅 かまど体験〈令和6年11月25日（月）〉



【児童の感想】

- ・ご飯のよごれを落とすときに水が冷たかったです。でも冬になると水がもっと冷たくなるから大変だなと思いました。お米をといだ水は、お皿を洗うのに使うことができてびっくりしました。ゴミが全く出なくて昔の人はすごいと思いました。

6. 学習の成果と課題

- ・現地学習や調べ学習を通して、石見銀山と仁摩との関わりを知ったり、昔から大切にされている物やそれを支えてきた人々の思いに気づいたりすることができ、郷土への誇りと愛着を高めることができた。

令和6年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

- 1 実施学年、人数 第6学年 17名、 第4学年 11名 第3学年 7名
- 2 実施時期 令和6年9月～令和7年2月
- 3 学習のねらい
 - ・温泉津町や大森町での現地学習を通して、石見銀山と温泉津町との関わりを学ぶ。
 - ・温泉津町での見学や取材活動を通して、温泉津町についての理解を深め、ふるさとに対する誇りと愛着の気持ちを育てる。

4 学習内容

	3 年	4 年	6 年
題名	大田の昔の くらしを知ろう	井戸平左衛門について調べよう	銀山学習
学習内容	<u>○課題設定</u> ・身近にある昔の道具を調べる。 ・大田の昔のくらしについて予想する。 <u>○現地学習</u> ・熊谷家で昔のくらし体験をする。 ・昔の衣・食・住についての話を聞く。 ・熊谷家が当時受けもっていた役割について知る。 <u>○まとめ</u> ・学習したことをレポートにまとめ、今の暮らしとのちがいを振り返る。	<u>○課題設定</u> ・地域にある、井戸平左衛門の石碑を巡る。 ・井戸平左衛門・松浦屋与兵衛について、資料を用いて人物像や業績などを知る。 <u>○現地学習</u> ・井戸平左衛門・松浦屋与兵衛の行いやその時代の様子について知る。 ・大森町内の井戸平左衛門ゆかりの場所を見学する。 <u>○まとめ</u> ・学習のまとめをし、井戸平左衛門の生き方を視点に振り返りをする。	<u>○課題設定</u> ・世界遺産や石見銀山の概要を学ぶ。 <u>○課題追究</u> ・世界遺産センター、龍源寺間歩をガイドの会の方のお話を聞きながら見学し、当時の様子を知る。(現地学習) <u>○体験学習</u> ・ゆり盆づくりを体験し、当時の人々の努力や工夫について理解を深める。 <u>○まとめ</u> ・学習内容をもとに、温泉津と石見銀山との関係を踏まえながら、新聞にまとめる。

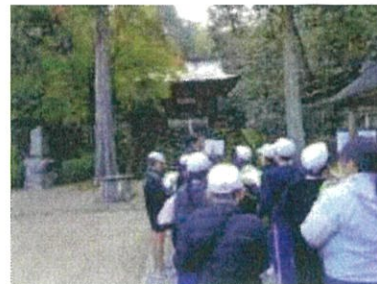
5 実際の学習の様子



熊谷家体験学習（3年）



熊谷家体験学習（3年）



井戸神社見学（4年）



松浦屋与兵衛史跡見学（4年）



ゆり盆体験（6年）



世界遺産センター見学（6年）



龍源寺間歩見学（6年）

6 学習の成果と課題

○石見銀山や温泉津町が世界遺産に登録された意味を理解したり、地域の宝物としての「石見銀山」について考えたりする機会となり、地域に愛着と誇りを感じることができた考える。

○銀山基金を活用することで、現地学習等の機会を今年度も多くもつことができた。現地学習を通して児童にとって幅広い学習の機会を設けることができた。

○事後学習（まとめ）については様々な方法で行ったが、地域の文化祭、学習公開日、学習発表会などの場を活用して、地域への発信を積極的に行っていくなどの学習活動の展開の工夫をしていくとよい。